



福山市立大成館中学校
大中だより

2018(平成30)年
4月6日
No. 1
校長 小寺和宏

2018(平成30)年度 1学期始業式 式辞 「辛抱(しんぼう)」

いよいよ2018年度(平成30年度)がスタートしました。
それぞれに、この1年にかかる思いを胸に秘めていることと思います。
昨年度の1年を振り返って、新2・3年生ともに大きく成長しました。
しかし、ここで立ち止まっているわけにはいきません。皆さんの成長に限界はありません。
更に大きく成長する1年になることを期待しています。

話しは変わりますが、今年度の生徒会のテーマは「大中革命」です。
革命というのは、ものごとが質的に大きく変化(変革)することと言います。見た目ではなく中身(質)が変わることを指しています。

「行事は頑張ったけど・・・?」、「歌声は大きかったけど・・・?」、「部活は頑張っているけど・・・?」にとどまるのではなく、一つ一つの頑張りが日頃の授業や掃除、部活、友達を大切にすること等に結びつくことを目指しています。それは人の成長にとっても大切なことです。

ある人がこんなことを言っています。

頑張ろうと一念発起は誰でもする。
努力までならみんなする。
そこから一歩抜き出すためには、努力の上に「辛抱(しんぼう)」という柱を立てなさい。
この柱に花が咲く。

今、大中は「一歩抜き出すために、努力の上に辛抱という柱を立てている」段階だと思えます。頑張ろうと一念発起しても、その頑張りがすぐに実を結ぶことはありません。

努力に挫折や失敗はつきものですが、そこで諦(あきら)めず努力を続けることを「辛抱」と言います。

努力しようと思っているけど、「暑くて授業に集中できない」、「無言掃除が徹底できない」、「部活が中途半端になっている」、「あいさつができていない」等々の状況がないか自分自身をしっかりと振り返ってみてください。

一つ一つの頑張りが日常生活と結びついたとき、辛抱の柱に素晴らしい花が咲きます。

2月25日に閉幕した平昌(ピョンチャン)オリンピックで活躍したフィギュアスケートの羽生結弦選手の怪我から復帰し金メダルを勝ち取ったやり抜く力・回復力、スピードスケートの小平奈緒選手の相手を思いやる共感力、パシュート(追い抜き)の高木美帆選手たちの協働する力等々は、皆さんが辛抱の柱に素晴らしい花を咲かせるために参考になる点がたくさんあると思います。

「辛抱」ということは、それぞれの夢や目標を切り拓(ひら)くためにとっても大切な力です。平成30年度、皆さんの辛抱の柱に素晴らしい花が咲くことを期待しています。